

# 薬局の存在を地域にアピール

## 岡山県で広がる「子ども調剤体験」



薬局の調剤室で、質問を投げかけながら分かりやすく説明する耕田氏

地域の子どもの安全を薬局に引き、漢方薬に親しみを感ずてもらったり、調剤業務を体験してもらったりする取り組みが、岡山県の薬局に広がっている。2011年は10軒以上の薬局が、30回以上のイベントを実施した。薬局にとっても、参加する親子にとっても有益で楽しいイベントになっている一方で、この輪は今後、岡山県域に広がりそうなのだ。



7年前に改装し、薬局の中が見えるようにガラス張りにした



「これは何でしょう?」差し出された生薬に子どもたちの手が一斉に伸びる

現在に至るきっかけを作ったのは、ふたば漢方薬局(岡山市)が開催する「親子漢方びっくり教室」。約7年前から夏休みの恒例

### 定着した「親子漢方びっくり教室」

#### ふたば漢方薬局

企画として開始し、参加者は年々増加。昨夏は4日間、6回実施したびっくり教室には100人以上の親子が参加するなど、今ではすっかり地域に定着したイベントになった。  
昨年7月29日に開かれた「親子漢方びっくり教室」には、地域の小学生ら子ども18人と保護者8人が集まった。小さなサイズの白衣を羽織って札を付けた子どもたちとその保護者を前に薬剤師の耕田哲治氏は、紙芝居を使って様々なクイズを出題。本物の生薬を次々に差し出し、触ったりにおったり、味わったりしてもらいながら、それが何であるかを当ててもらった。



生薬の実物を前に楽しそうなお子どもたち



保護者も熱心にメモをとる

トモモロシの毛ミカンの皮の種を舐めると酸っぱいのが薬として使われていることや、柿のヘタ、セミの抜け殻、動物の骨の化石、紫水晶も薬になるとを説明。実物を前に子どもたちは目を輝かせて聞き入り、保護者は熱心にメモを取っていた。  
紙芝居を使った説明と体験は約1時間。この中耕田氏は「生薬と食べ物」とは同じもの。毎日のご飯をちゃんと食べていたら元気になる。薬を飲まなくても大丈夫。これを覚えておいてほしい」と語りかけた。また、甘い、苦い、辛い、酸っぱい、塩辛いという五つの味にはそれぞれ動きがあるとし、「辛い味は体を温めて汗を出す」となど解説した。  
子どもたちはその後、薬研でマイミを粉にする作業を体験。漢方薬が抽出機で熱し上がってパック詰めされるのを見学した。最後に修了書が手渡され、笑顔で薬局を後にした。

(12面へ続く)



非ステロイド性鎮痛・抗炎症剤

**ハイペン<sup>®</sup>錠** 100mg / 200mg

Hypen<sup>®</sup> 薬価基準収載

エトドラク製剤

製薬

効能・効果、用法・用量および禁忌を含む使用上の注意等は添付文書をご覧ください。

製造販売元(資料請求先:学術部)  
**日本新薬株式会社**  
〒601-8550 京都市南区吉祥院西ノ庄門口町14

紙芝居や劇を使って対話しながら進められる説明に、子どもたちは集中して聴き入る



口に入れて味わってみる



調剤室のトレイに整理された生薬を見せる



薬研でヤマイモを粉にする体験も好評だ

## 「薬局の存在知って欲しい」 7年前の改装を機に開始

(1)面から続く)  
子どもたちに「生薬に触れ味わう体験は驚きの連続のよう」で「これまでに「北石やまの抜け殻や野菜の皮や種・玉ねぎをみもお薬になるとはびっくりした」を食べてみる、ものすごく苦かったけどびっくりした」「薬方と食べ物は元は同じ」として、五の味にはそれぞれ体に対する効果が違ってくるのが分かった。などの感想が寄せられている。

このほか、小学生のうちに薬剤師の仕事内容を知ってもらって、「二人でも多くの子どもに将来薬剤師になってほしい」との思いが、緋田氏には強くある。

最近、この取り組みを全国の漢方薬局に向けてアピールし始めた。「私の薬局では年間数十人だったが、多くの薬局が実践すれば数百人に実施できる。将来、薬学生が実習に来た時に、『親子漢方びっくりに教室に参加したことがきっかけで薬学部に進んだ』と言ってくれるのが夢。そこまでは続けよう」と話す。



修了書を手に笑顔の子どもたち

かし参加者はなかなか集まらず、その状態が数年間続いた。「親子漢方びっくりに教室への名称変更、紙芝居の活用、子ども用白衣や薬研体験の導入など内容を少しずつ改良。5年目には地域に定着し、定員以上の申し込みが来るようになった」。

子どもたちが喜んで帰っていくのを経験すると満足するし、次はもっと楽しいことをしてあげようと思う、新しいことに取り組んできた」と緋田氏は話す。

参加する親子は基本的に健康で、直ちに薬局の顧客になるわけではないが、「漢方薬の必要性が生じた時に思い出し、こればそれでいい」といふ。実際、びっくりに教室に参加した保護者が数年後、相談に訪れるケースが出てきている。



自宅や近隣で見つけた薬の材料を台紙に貼り付けて後日薬局に持ってきてもらい、引き換えにプレゼントを渡している

**けど)に!!**  
患者さんが楽になります。  
貼る。  
骨部・かかとなどはよく注  
う軟膏を厚くぬって貼る。

適度に体位交換を行い、  
ガーゼを貼る  
きます。この段階で早くこ  
には、血溜の痛みをよし  
と交換を行ってください。

3号より抜粋)  
り傷にもOK!  
小指りこれといった手立てが  
しまったのです。こう言っ  
む渡邊正司氏(42)だ。そ

7薬学部長(現名誉教授)が、  
どの段階の化膿状態でも  
再現したのが、この薬である。  
生薬独特のグレー粉のよう  
かされ、しもやけ、アトピーは  
つた。21グラム入り1,800円。



**Hand hygiene Infection control**

速乾性擦式手指消毒剤 薬価基準対象外

# ウェルパス®

手指消毒液0.2% 100mL 1L  
300mL 5L

WELPAS® Antiseptic Solution for Hand 0.2%

詳細につきましては、容器等をご参照ください。

製造販売元  
**丸石製薬株式会社**  
http://www.marushi-pharm.co.jp/

【資料請求先・製品情報お問い合わせ先】  
丸石製薬株式会社 学術情報グループ  
〒538-0042 大阪市鶴見区今津中2-4-2  
TEL. 0120-014-561

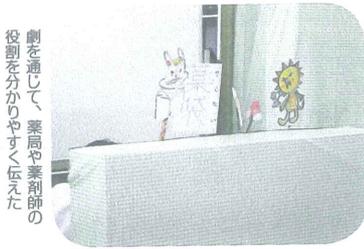




カルピスを使って水剤を調製した



10年は4人の薬学生が「お薬レンジャー」になって、楽し説明した



劇を通じて、薬局や薬剤師の役割を分かりやすく伝えた

## 薬学生主体の「子ども調剤」を実施 社会との接点、考える機会に

### サンライズ薬局



薬袋の作成に取り組む子どもを、「お薬レンジャー」が優しく見守る



子どもたちは積極的に手を挙げ、クイズに回答した



一包化作業を体験

サンライズ薬局(岡山市)は10年から、地域の親子が参加する子ども調剤体験を開始した。実務実習中の薬生がシロケラム構成を主体的に考え、当日も講師役となって前向きに出ていることが特徴だ。

10年は系列のケイ・アイ堂薬局(同)と合同で、4人の薬生が主体となって10月に実施。11年は2人の薬生が中心になって7月に実施した。サンライズ薬局の薬剤師、小笠原加代氏は「以前から行っていたが、機会に恵まれなかった。10年から薬学生の業務実習を受けることになり、これを契機に、子どもたちが積極的に手を挙げ、クイズに回答した」

も近い年齢の薬生なら、何かに面白発想をできるのではないかと考え企画した」と振り返る。10年は、4人の薬生が戦隊ヒーローを模した「お薬レンジャー」に扮し、面白おかしく紙芝居形式のクイズを進行した。ラムネやカルピスを使って一包化液剤調製、散剤分包、薬袋作成に取り組み体験も薬生が主導。子どもたちは、親しみを感しながら楽しく体験できた。

「学生は準備の時から、ごちゃごちゃとあやういなどと楽しんで、時間を忘れ、実習の空き時間に一生懸命作っていた。スタッフも一緒に楽しんで、全員が一丸になって取り組んだ」と小笠原氏は話す。11年は、9人の薬生が新たに作成した紙芝居に加え、「劇をしたい」と発案。病気になるライオンに薬剤師のワサギが対応する劇を通じて、薬局や薬剤師の役割を分かりやすく解説した。子どもが分かるように伝えようと苦労した経験や、薬局と社会との接点を考えたことは、薬学生の貴重な体験になった。

また、実務実習指導薬剤師は、薬生が作った紙芝居や劇を事前にチェック。受診勧誘という薬局の役割を薬生が十分に理解していないことなど、指導や理解不足の部分が明らかになり、それを補う機会にもなったという。

「薬局を、単に薬をもらいに行く場所ではなく、もっと身近な存在として地域の人たちに感じてもらいたい。薬剤師や薬局の必要性を理解してほしい。子ども調剤体験がその一つの手段になればいい」と小笠原氏は強調する。サンライズ薬局は12年も、新たな企画を盛り込んで「子ども調剤体験」を実施する計画だ。

新発売

処方せん医薬品<sup>※</sup>

HMG-CoA還元酵素阻害剤

薬価基準取扱い

アトルバスタチン錠 5mg「トーフ」、10mg「トーフ」

日本薬局方 アトルバスタチンカルシウム錠

注)注意—医師等の処方せんにより使用すること

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、製品添付文書をご参照ください。



製造販売元(資料請求先) 東和薬品株式会社

〒571-8580 大阪府門真市新橋町2番11号 学術部DIセンター ☎0120-108-932(24時間受付対応) http://www.towayakuin.co.jp